

ワシントンDC日本商工会の活動 — 2012年は桜寄贈100周年記念

国際政治経済の動向を見通す上で、ワシントンにおける議論、政策決定をウオッチする必要性がある意味近年になく高まっている。米国議会はもちろんのこと、議員や議員スタッフの動きも注視しておかないと見誤る部分があるかもしれない。

ロビイング団体ではないが、良好な日米関係の構築を目的にさまざまな活動を行い、もって日米ビジネス基盤の育成にも寄与する活動を行うワシントンDC日本商工会(JCAW)を訪問し、大出隆会長(Corporate Officer & General Manager Hitachi Corporate Offices, D.C. & L.A.)

ならびに大辻純夫幹事(Senior Vice President Toyota Motor North America, Inc.)、上宮新一郎総務担当理事(President & CEO ENERGY USA INC., (Marubeni))、米山伸郎財務担当理事(General Manager Misui & Co. (U.S.A.), Inc. Washington D.C. Office)にお話を伺った。



左から米山理事、大辻幹事、大出会長、上宮理事

【JCAWの活動】

JCAWは1988年11月に設立されたが、法人化される前の組織は50年ぐらい前に設立。会員数は約500名で法人会員が110社余。会は理事会の決定により運営され、理事会は15名で構成。

ワシントン地区のビジネス・コミュニティ内の連携と親睦を図り、教育、スポーツ、社会貢献等の活動を通じて、米国人社会との交流・理解の促進を目的に、①会員相互の親睦活動、②会員の研修行事、③地域協力活動、④対外交流活動、⑤広報活動の5分野にわたる活動を行う。

具体的な主要活動は次の通り。

親睦活動 年間の最大行事が「新春祭り」。会員の親睦を図るとともに、米国の人々との交流と日本を再認識してもらえるように日本の伝統的なお正月を紹介する。ワシントン・プラザ・ホテルで開催し、5時間余のイベントであるが、2010年は1,500人の来場があった。また、在米日本大使館広報文化センターと共同で、月1回日本の文化の理解促進を目的に「日本映画の上映会」を開催。上映会後にはレセプションを行い、来場者との交流を図る良い機会になっている。また、ワシントン地区の「日系米人との交流会」を行っているが、この交流会の強化の一環で、日系米人の心のふるさと全米日系人博物館があるロサンゼルス地区との間で交流の機会を新たに設けた。今後は、この交流をニューヨークほかにも広げていき、いずれ全米展開させていく。

研修 毎月1回研修会を開催。日米政治・経済、通商等の専門家を講師に招き、会員のみならず一般の方にも参加いただいている。

地域協力活動 教育支援の1つとして、「土曜日のみ開かれる補習校・日本語学校への支援」を行っている。6割ぐらいが日本人の子弟(いずれ日本に帰る人)、あと4割ぐらいが現地在住の両親のどちらかが日本人で日本語を勉強したいという人。また、会員有志からの賛助金を活用した慈善活動として、貧困・困窮者、視聴覚不自由者、低所得者の教育支援等を行う「NPOへの支援活動」を行っている。

【2012年桜寄贈100周年記念行事の企画】

尾崎行雄東京市長がワシントンDCに桜のソメイヨシノを贈ったのが1912年。それからちょうど100周年に当たるのが2012年。この2012年を新たな日米交流の100年の年と位置付け、日米関係再構築の機会にしていこうと、現在在米日本大使館と商工会が中心となりさまざまな行事を企画している。

一方、周年事業には寄付活動も必要となることから、商工会に下部組織（JCAW ファンデーション）を設置し、寄付にかかる税の控除証明書を発行できる非営利団体（Exemption Requirements-Section 501 (c)(3) Organizations）を申請中である（その後2010年12月に承認取得）。

記念行事の開催に当たっては、大使館と商工会が一体となって動こうとしているが、大きく大使館イニシアチブが2つ、商工会イニシアチブが2つの計4つの企画が挙がっている。

在米日本大使館イニシアチブ 1つは「タイダル・ベイソンの石碑と灯籠の整備」。タイダル・ベイソンは、ポトマック川に面している小さな池で、そこに桜並木があり、今でも寄贈した桜約3,000本が美しい花を咲かせ続ける。そこに石碑と灯籠が設置されているが、今では誰もあまり注目しないような状況になっている。これを整備するとの計画。もう1つは「桜の植林の全米展開」。桜の植樹を主に在米日本大使館・領事館があるとところ10ヵ所ほど選定して植林していこうというもの。

ワシントンDC商工会イニシアチブ 1つは「日本語教育の支援」。経済状況の厳しさから州教育委員会の予算が削減され、日本語教育事業が縮小あるいは廃止されている。一方、中国は政府が教科書の無料配布を行うなどの支援を行い、中国語授業が増えている。この現状を憂い商工会としてできる限りの支援を行うというもの。もう1つは「日米関係を対象に政策研究を行うシンクタンクへの支援」。日米関係の政策研究を行うシンクタンクの数が増減する中、日本研究のプログラムを持つところ、またはあらためてこれから持とうとするところに支援を行うというもの。日本の良き理解者の育成のために、将来への布石を打つことを目的にこのプロジェクトを選定。

これら4つのプロジェクトの実施には、商工会だけでは対応が難しい。日本の各企業本社はもちろんのこと、必要な資金を寄付という形で募るべくニューヨーク商工会議所等の協力も仰いでいく。また、これらの事業は単発で終わることなく継続性が求められるところであり、寄付金をファンドにして末長く事業を継続させていきたいと考えている、ということであった。

2012年、新しい日米関係の構築に向けて、節目のこの年をぜひ大切にしたい。

ワシントンDC日本商工会ホームページ：<http://www.jcaw.org/>



タイダル・ベイソンの桜並木と石碑（左）、灯籠（右）

（2010年11月22日、日立製作所ワシントンコーポレート事務所にて、山中通崇） 